

| | | | |
|---|---------------|-----|--|
|  | 名古屋大学農学部 同窓会報 | 発行所 | 名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/ |
| | セコイア通信 | 編集人 | 佐々木康寿・三矢史朗 |
| | | 発行人 | 服部束穂 |
| | | 印刷所 | 株式会社 クイックス |

親睦の組織から支援する組織へ

名古屋大学大学院生命農学研究科長・農学部長 川北一人

名古屋大学農学部同窓会員の皆様には、日頃から大学院生命農学研究科と農学部の教育研究活動にご理解とご支援を賜り、お礼申し上げます。またこの春に卒業・修了を迎えた皆様に心よりお祝い申し上げます。

農学部が創設されたのが1951年ですので、2021年には創立70周年を迎えようとしています。この間、本学部・研究科を巣立った数多く卒業生が多方面で活躍されています。卒業生の皆様が名古屋大学を卒業・修了したことを誇りに思い、また「同窓のよしみ」で思わぬ繋がりが生まれることもあったかと思えます。これからは、同窓生と大学、あるいは同窓生間のネットワーク形成に研究科・学部と同窓会が積極的な役割を果たしていきたいと考えています。

2004年に国立大学が法人化されて以来、6年ごとに大学が目標と計画を立て、国が評価する仕組みとなっています。2016年からは第三期中期目標・計画期間となり、名古屋大学でも松尾清一総長が「名古屋大学松尾イニシアティブNU MIRAI 2020」を公表し、世界トップレベルの教育研究活動、社会連携によるイノベーション創出、キャンパスの国際化とアジア展開、自律的なマネジメント改革などにより、本学を世界屈指の研究大学に成長させることを宣言しています。これに呼応する形で研究科・学部も明確な目標を設定することになります。大学の使命が教育研究であることは当然変わりませんが、学術研究や大学教育に関する社会的要請は刻々と変化しており、教育と研究を遂行する上で、国際化・国際協働ならびに社会連携という観点からも対応することが求められています。学部卒業生の8割近くが大学院に進学する状況で、大学院への社会人学生や留学生の受入や、大学と企業あるいは大学と研究機関との間での共同研究を推進していく必要が

あり、そのためには様々なネットワーク形成が不可欠です。

これらの背景により、同窓会のあり方を再考する時期に差しかかっています。研究科・学部と同窓会とが一体となり、今まで以上に同窓生が研究科・学部を身近な存在として活用していただくようにしたいと思っています。生命農学研究科・農学部の活動状況や研究のシーズについて情報発信するとともに、同窓生の活躍を把握し、同窓生間や同窓生と在学生の間の情報交換と交流の場を提供していきます。それと同時に、次世代の若者を支援する場として位置づけていきたいとも思っています。いずれも同窓会の活動・運営に関わることで、同窓会役員や会員の皆様とも相談して進めて参ります。

現在名古屋大学では、人材育成の発展のために「名古屋大学基金」制度を設けています。この制度は、寄附金を基金として積立て、その運用益で各種の事業を展開するものですが、昨今の厳しい経済状況及び金利の実情では、十分な運用益を上げることが困難となっております。そのため、寄附金の運用益による事業とは別に、寄附金の一部を直接支出できる「特定基金」を設け、学生育英などの部局事業に活用することとなりました。本研究科・学部でも、特定基金対応の準備を進めているところです。

同窓会が同窓生の親睦を深める組織であることは当然ですが、さらに同窓生が大学を身近な存在として意識し、同窓生間のネットワーク形成の場として活用し、次世代の人材育成を支援する組織になることを目指します。ご理解とご協力をお願いいたします。



農学部同窓会会長挨拶

服部 束穂 (昭和53年農芸化学卒)

この3月に農学部、生命農学研究科を卒業、修了される方々に先ずお祝いを申し上げます。そして農学部同窓会への入会を心より歓迎いたします。同窓の絆を確かなものにするために、農学部・生命農学研究科で過ごした日々と出来事、出会いを今一度思い浮かべ、よいものを選んで脳内の取り出しやすいところに格納しておいて頂ければ幸いです。

さて、昨年の本誌で、直接面識がなくとも母校出身の先輩や後輩の活躍を喜ばしく、誇らしく感じるという素朴な感情が同窓会というコミュニティの源流にあると思うといったことを書きました。すでにご存じの方も多いと思いますが、昨年の5月には、昭和53年食品工業化学科卒業、同58年農学研究科農芸化学専攻修了の松岡信氏（生物機能開発利用研究センター教授）が紫綬褒章ならびに日本農学賞と学士院賞エジンバラ公賞を受賞されました。私と同期であり、現在も同僚ということになります。受容体の発見をはじめ、植物ホルモンジベレリンの生合成とシグナル伝達およびこれに関する遺伝育種学的研究などが評価されました。素晴らしい研究です。昨年の同窓会総会では報告させて頂きましたが、改めてお祝いを申し上げるとともに、氏の活躍と栄誉を誇りに思う気持ちを会員の皆様と共有したいと思います。

このセコイア通信の巻頭では、毎年、本同窓会の名誉会長（＝農学部・生命農学研究科長）が、農学部の活躍状況を紹介されております。グローバル30、グローバルCOE、リーディング大学院、スーパーグローバル大学創成支援プログラムなど様々な公募型の教育プログラム事業にほぼ取りこぼしなく採択され、農学部・生命農学研究科における教育・研究のいっそうの充実が進んでいる様子がかがえるかと思えます。しかし一方で、これら事業の多くがガバナンスやマネジメント強化など国が進める大学改革の推進と表裏をなす形になっており大学運営の実際はとても厳くなっているのが現実です。大学自らの理念と自由な発想に基づく教育研究の自律的実践のためには、独自の財政基盤が重要になってきます。そのために、名古屋大学は法人化後、名古屋大学基金を立ち上げ、以来独自の財政基盤を確保するための努力を続けてきています。農学部

同窓会会員の中にもすでに協力された方々が多数おられると思います。このような財政基盤の充実は名古屋大学が名古屋大学らしく発展していくために益々重要になります。さらに、28年度からは、名古屋大学基金のなかに、特定基金の制度がスタートし、部局等の単位で目的をもって寄附を募ることが可能になりました。工学部ではすでに始まっていますが、農学部・生命農学研究科もそのような準備を進めていると聞いています。名古屋大学基金については全学同窓会が様々な形で多大な協力を行っています。これと同様な構図で、農学部・生命農学研究科のための特定基金に関しては、熱い視線が農学部同窓会へ寄せられています。この期待は「会員相互の親睦連絡を図り、あわせて母校の発展に寄与する」という本会の目的からいって当然のことでしょうし、同窓会ネットワークを最大限に活用して頂けるよう努力してゆきたいと思えます。これまで、上記目的の前半の部分をいかに実現し充実していくかが先決と考えてきました。同窓会をより会員のためになるものにしていくことにより会費納入率を上げ、同窓会自体の財政基盤を充実させ、さらに活発に活動すること、そして母校（農学部）に対するさらなる共感と帰属意識を生み出すこと、これらがあって初めて母校の発展に寄与することができると思ってまいりました。しかし今後は、2つを同時に進めていく必要がありそうです。そのためには、同窓会の運営体制も考え直す必要があるかもしれませ。会長は外部の方と大学の教員が交互に務めているものの、実際の運営をおこなう幹事（理事）は現役教職員だけです。しかし、基金活動への協力をはじめとする、母校への協力を訴える人々が母校の人間ばかりでは好ましくはないように思います。大学の外におられる会員からの視点が十分に反映される運営体制が不可欠だと思います。会員の皆様には、運営に対するより積極的な参加をお願いしたいと思います。

法人化以来、農学部・生命農学研究科の発展における同窓会の役割はいっそう重要になると語られてきたのですが、実際に一歩踏み出すべき時がやってきたという感じがいたします。会員の皆様には農学部同窓会への益々のご協力と支援をお願い申し上げます。

定年を迎えて

生命技術科学専攻 生命技術社会システム学講座 食糧生産管理学研究分野 生源寺 眞一

名古屋大学に着任して6年。小学生として過ごした6年間に比べて実に速く、あっというまに過ぎ去ってしまいました。冗談半分で申し上げるのですが、偽りのない実感でもあります。子供のころは八事の近くに住んでいました。小学校も高学年になると、友達との遊びの範囲が広がり、当時は八事経由の市バスの終点だった山手通4丁目付近にも足をのぼしていました。防空壕の残骸のほら穴が格好の遊び場だったのです。さらに日赤病院を越えて歩みを進め、完成直後の豊田講堂を仰いだ記憶も鮮明に残っています。半世紀後の今日でも斬新な威容が、子供の目にも鮮やかに焼きつけられたわけです。

最後の6年間を、その名大のキャンパスで過ごすことができました。心から感謝申し上げます。振り返ってみれば、1976年に農林省農事試験場に奉職して以来、北海道農業試験場、東京大学、そして名古屋大学と、40年にわたり農業経済学の研究と教育に従事したことになります。ひとくちに農業経済学と言っても、対象領域や研究手法にはかなり幅があります。当初は現場に密着した農業経営の調査研究に没頭し、続いて農業の生産性を課題にさまざまなデータ解析に取り組み、最後は農業政策を理論的に評価する仕事に時間を割くことになりました。

もっとも、名大の6年間でどれほど研究を深められたかと問われれば、忸怩たる思いがあります。苦しまぎれの言い訳として、関連学会の会長や日本学術会議の

役員など、研究を支える仕事にエネルギーを投じた面があります。知力の衰え

も否めないというのが正直なところですが、あまり意識したつもりはないのですが、後継世代への橋渡し役としての仕事の比重が高まったのも事実です。これには年相応の役回りといった面もあったに違いありません。ひとつだけ成果をお伝えすると、大学生向けの教養書として岩波現代全書の『農業と人間』を刊行することができました。あとがきでも触れましたが、大学院生諸君のサポートのおかげで上梓にこぎつけた次第です。

初任地の農事試験場の部長から、若いときは職場を早く変わり、加齢とともに長期間在職するほうがよいとのアドバイスをいただきました。小生は農事試験場を5年で、北海道農業試験場を6年で離れました。また、東大着任後3年目でケンブリッジ大学に1年間滞在することになりました。いずれも部長のアドバイスが念頭にありました。そのほうが自分の成長にもつながるとの実感も得られたように思います。ところが、最後の名大を6年で終える今になって、年をとったら長期在職すべしとの助言の意味が分かったような気がしているのです。加齢後の長期在職は本人のためではないのです。まさに組織に対する貢献、社会に対する貢献の見地から長期在職が望ましいのです。この意味で、研究科や学部にはほとんど貢献なくして離任することについて、お詫びを申し上げつつ、最後のご挨拶に代えさせていただきます。



定年を迎えて

事務部 管理係 加藤 元昭

私は、昭和56年に技能職員として農学部採用されたので、36年お世話になったことになります。

私が採用されたころは、受付や運転手など、同じ職種のかたが多くいらっしゃいました。私の主な業務は、建物内の営繕、給水・排水関係の修理で、冬季はボイラーの運転も行っていました。名古屋大学に就職

する前は、建設会社で現場監督をしていましたので、営繕関係の業務は理解して

いるつもりでしたが、実際に就労してみると、勤務体系の違いなどから、前職とは違う難しさがありました。

その当時の農学部の建物は、建築されて15年ほど



経ったところで、廊下も壁も暗い印象でした。各研究室の実験室などは、安城時代から使われていた備品や物品が持ち込まれており、古めかしい感じでした。また、化学水栓やトイレの給水パイプの劣化による破損で、床が水浸しになることもたびたびありました。床には隙間が多かったため、水がしみ込んで下の階の火災報知機の警報ブザーを鳴らしてしまうことになりました。夜間に緊急対応が必要なときなどは、受付のかたに対応していただき、大変感謝しております。

少ない人員での業務でしたが、いろいろなかたに協力していただいたおかげで、採用当時に感じていた難しさも解消されていったと感じています。

私は事務部の管理係所属でしたので、同じ会計系のかたがたと飲みに行ったり、旅行に行ったりしました。業務を離れて、プライベートな時間を一緒に過ごすのは、普段とは違う新鮮さがありました。

また、先生がたにも大変お世話になりました。圃場

で作業をされていた先生がたが、私に声をかけてくださり、一緒に作業をしてくださったこともありました。

これまで、いろいろと教えていたことや、業務の中で苦労したことは、身についてきたと思います。たいていのことは一人で対応できるようになりましたが、複数でやれば容易にできることが一人ではできず、歯がゆい思いをすることもあります。

最近では物品の固定など、耐震のための依頼が多く、安全管理上からも重要なので、優先的に対応しています。そのため本来の業務が後回しになってしまい、迅速で十分な対応ができなくなってしまったのが私としては心残りです。

私が在籍していた36年の間に、大学も一般社会も大きく変わりました。そしてこれから先も変化を続けていくことでしょう。

長い間お世話になりました。ありがとうございます。農学部・生命農学研究科の皆さまがたには心より感謝申し上げます。

定年を迎えて

全学技術センター（農学） 北村 繁 幸

農学部にお世話になって、約40年が経ちました。人生80年とすると、およそ半分を農学部で過ごしたことになります。

この間、いろいろな方々との出会いがあり、様々なことを経験し、多くのことを学ばせていただきました。元素分析室の技官として採用され、当時の委員長をされていた寺島典二先生には、理化学研究所での分析の研修をはじめ、元素分析の仕事がきちんとできるよう指導をしてくださいました。その後、質量分析も担当するようになり、服部宏之さんや片山正人さんに基礎を教えてくださいました。

元素分析計も質量分析計も故障が多く、予算はあまりありませんでしたので回路図とにらめっこしながら修理したことを思い出します。今のようにパソコンがデータ処理装置として付属しておらず、すべてがアナログの世界でした。半田ごてを握り部品を交換したことや改良を加えたりと、メンテナンスは自由にさせていただきました。8bit-microcomputer が流行りだした頃、これを使ってデータ処理に用いることを始めました。A/D 変換器の製作からプログラミングまでを仕事の合間に行い、デジタル化されたデータを得たときの感動

は今でも忘れられません。

その後、情報処理の仕事も行うようになり、まだ今のように NICE が整備されていない中、建物のネットワーク設計や機器の選定など、当時の情報処理委員長をされていた前多敬一郎先生や吉田正人先生と奮闘しました。農学部にはじめてメールサーバーを導入し、nucc のアカウントしかなかったのを、agr.nagoya-u.ac.jp ドメインを起ち上げようやく独自のメールが使える環境になりました。

装置を改良したり、付加価値を加えたり、新しいものを創り出したりすることを比較的自由に許容していただける環境は、仕事をする上でとても大事なことのように思います。この環境があったおかげで、楽しく学ばせていただき仕事ができたとおもっています。この環境は今も引き継がれており、後輩たちにも受け継がれていくものと思います。

本当に長い間お世話になりました。生命農学研究科・農学部のみなさまには感謝とお礼を申し上げます。みなさまのご健康とご発展を心よりお祈り申し上げます。



平成29年度名古屋大学農学部同窓会、総会、講演会、懇親会のご案内

平成29年度名古屋大学農学部同窓会、総会、講演会、懇親会を下記の日程で開催いたします。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。懇親会、講演会のみ参加も歓迎いたします。

○期 日：平成29年6月10日（土）＊名大祭期間中＊

○総 会

時間：午後2時～3時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○講演会

京都大学防災研究所 地盤災害研究部門 傾斜地保全研究分野教授

松浦 純生 先生 第25回（昭和54年3月）農学部林学科卒業

『ポセイドン号沈没の謎に迫る』

昭和47年に公開された「ポセイドン・アドベンチャー」は、パニック映画の傑作として世界中で大ヒットしました。豪華客船がニューヨークからアテネへ向かう途中、巨大な波に襲われて転覆し、少数の乗客らが力を合わせて脱出するというストーリーで、挿入歌である「モーニング・アフター」とともに懐かしく思い出される方もいることでしょう。

本講演では、ポセイドン号を転覆させた巨大な波について、様々な角度から科学的に検証します。

時間：午後3時～4時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○懇親会

時間：午後4時30分～6時30分

場所：名古屋大学内“花の木”ミーティングルーム

会費：1,000円

同窓会を開きませんか!?

農学部同窓会総会を機に、久しぶりに農学部に集まって同窓会を開催しませんか？

農学部同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。是非、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) まで事前にご連絡下さい。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用いただくこともできます。

農学部第13回卒業生および修士第11回修了生の卒業50周年祝賀会のご案内

農学部第13回卒業生および修士第11回修了生（昭和42年卒業・修了生）の卒業50周年記念祝賀会を、第46回農学部談話会を兼ねて、農学部談話会との合同で下記の通り開催いたします。万障お繰り合わせの上ご出席くださいますようお願い申し上げます。

農学部同窓会長 服部 東穂
農学部談話会 世話人一同

日 時：平成29年6月10日（土）11：00～14：00（昼食をご用意いたします）

場 所：名古屋大学農学部大会議室

会 費：2,000円（当日ご持参ください。卒業50周年の方は無料です。）

内 容：昼食会、記念講演、記念撮影 他

卒業50周年の方へは、後日ご招待状を送付させていただきます。祝賀会に関する情報は、農学部同窓会ホームページにも掲載しております。ぜひご覧ください。

記念講演：「都市の木質化－森林と都市の持続的調和をめざして－」

佐々木 康寿 先生（名古屋大学大学院生命農学研究科 教授）

我が国には一見緑豊かな国土が広がっているが、社会構造などの変化によって林業は停滞し、これに伴って森林の手入れ不足による荒廃や生態系の崩壊も深刻化している。一方、都市部では経済的発展と物質的富を享受し続けた今日、多くの弊害も際立つようになり都市住民の生活の質の低下を招くなどの諸課題に直面している。このような森林と都市が抱える問題を、都市部に木材を投入することで森林・林業の再生と都市の活性化を目指そうとする異分野連携の「都市の木質化」プロジェクトに関して、名古屋錦二丁目をフィールドとした取り組みを紹介する。

卒業生の言葉

大学生活を振り返って

生物環境科学科 生物材料工学研究分野 東内 ありさ

月日が経つのは本当に早いもので、四年間の大学生活も終わりを迎えてしまいました。

私がこの学科を希望したのは、木や森が好きであったこと、そして大好きなジブリの「もののけ姫」に影響を受けて森林保護について考え出したことがきっかけでした。

大学の講義や実験実習では、森林について物理、生物、科学などの様々な知識を使って、沢山の角度から森林について学ぶことができました。もともと物理選択であったこともあり、生物系の講義は分からないことだらけでしたが、専門的な知識が増えていくことが楽しくもありました。三年次のフィールド実習では、学科全員で稲武に合宿し、森にトラップをかけたり、急な斜面での毎木調査や樹木の伐倒、枝打ち等を行いました。森の中を歩き回って、体力のない私には正直辛くもありましたが、普段あまり踏み入れない森林の実態や林業の大変さを改めて知ることができました。

大学外でも、友人と山に登ったり、キャンプをした



り、釣りをしたりと、今まで経験したことのないような形で、山、川、海、たくさんの自然に触れることができました。そして、その中で自然の良さ、森林の大切さを感じ、自分が森林を守っていく上でできることは何かを考えるようになりました。

四年生になり研究室に配属され、現在は木材の物性に関する研究を行っています。木材利用という方面から、森林を保護する、そういったことが将来的にできたら良いなと思っています。これからは大学院に進学し、研究を続ける予定です。学生でしか学べないことをしっかりと学び、有意義な二年間にしたいと思いま

す。そして今後は、就職など、将来について考えることが多くなっていくと思いますが、後悔のないようにしたいです。

最後になりましたが、今までどんな時もあたたかく応援してくれた両親、たくさんの経験を共にし、切磋琢磨してきた友人、ご指導いただいた先生方や先輩方には、深く感謝しております。今後共よろしくお願ひ致します。

私の4年間

資源生物科学科 水圏動物学研究分野 大崎 真穂

長いと感じていた4年間も、気が付けばあっという間に過ぎてしまいました。この大学生活を思い返してみると、本当に貴重な経験を沢山することができた学生生活だったと感じています。

私は、生物についてしっかり勉強したいと思い、農学部に入りました。専門的な講義は、難しいと感じることもありましたが、友達と一緒にわからないところは質問し合い、理解を深めていく過程は、とても嬉しく感じました。4年生になり、研究室に配属されてからは、得られた結果をもとに自分で考えることの大切さを学びました。一生懸命やった実験が上手くいかず、心が折れそうになることもあります。いつか成功することを信じて、これからも努力していこうと思っています。

また、講義や研究以外にも様々なことを体験することができました。4年間、ブルーグラスという音楽を演奏するサークルに所属し、マンドリンを弾きました。名大祭や、ライブハウス、公園、ブルーグラスのフェス会場など、様々な場所での演奏機会をいただきました。さらに、2年生の冬休みには、アメリカに行って、本場のブルーグラスの演奏を聴くという貴重な経験もできました。

そして、3年生の時には、タイとカンボジアでの海外実地研修に参加しました。それぞれの国で、現地の学生とグループを組んで調査を行いました。不慣れな英語で、専門的な話し合いをするということで、相手の考えを聞き取ることができなかったり、思ったことを伝えられなかったりと、悔しい思いをしたこともありましたが、全ての過程が終わったあとの達成感はいまだに経験したことのないくらい大きなものでした。

このように充実した4年間を送ることができたのは、私を支えてくださっている周りの方々のおかげだと思っています。友人たち、先輩方、先生方、そして家族に対する感謝の気持ちを忘れず、これからも日々精進していきたいです。



卒業を迎えて

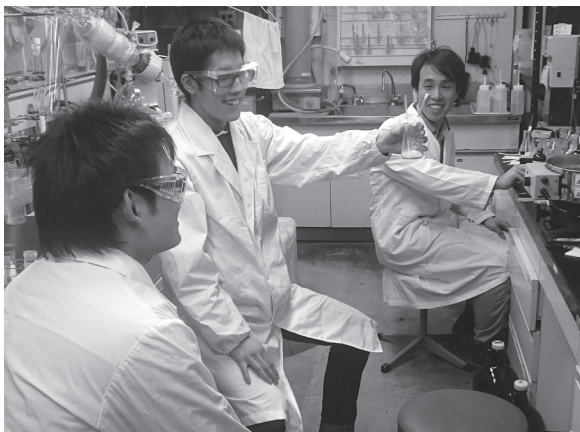
応用生命科学科 生理活性物質化学研究分野 澤木 裕紀

私は、大学生活の中で本当にたくさんのことを学ばせていただきました。人生で初めての一人暮らしや、主体的に学ぶことが求められる大学での講義など生活や勉学に悪戦苦闘もしました。しかし、卒業を迎えた今となっては、大学生活全てが良い思い出です。

大学での講義や実習では、高校の知識を基盤とした専門的な内容を学び、実践させていただきました。私は熱心に有機化学の魅力伝える先生方の講義を聞く中で、もっと有機化学を学びたいと強く思うようになり、四年生の研究配属時に有機化学を学ぶことができる今の研究室を選択しました。研究室に配属されてからの一年間は、うまくいかないことも多くありましたが、実験を通して有機化学に深く触れることができ、本当に勉強になることが多い一年でした。

大学では学習活動以外に、ソフトボール部で汗を流したことも大学生活の大きな思い出です。ソフトボール部には大人の監督がおらず、監督やコーチを学生が務めるという大学ならではの雰囲気があり、私はそんな雰囲気惹かれて入部しました。しかし練習内容を決めることから練習試合を組むことなど、全てを部員だけで行うことは想像以上に大変でした。しかし、部活の仲間と過ごした時間は一生忘れられない思い出となりました。

卒業後は大学院に進学し、さらに深く有機化学について学び、将来的には有機化学を使って何か人の役に立てることに携わりたいと考えています。卒業してからも上手くいかず苦しむこと、困ることがあると思います。そんな時は、この四年間のことを思い出し、時には大学時代の友人に助けを求めて乗り越えていきます。最後に、私が卒業まで頑張ってきたのは、熱心に講義していただいた先生方、共に学び共に遊んだ友人達、そしていつも応援してくれていた家族、この四年間私に関わってくれたすべての人のおかげです。本当にありがとうございました。



学生生活を振り返って

生物圏資源学専攻 森林環境資源学研究分野 原 竜 弥

長かった学生生活も終わりを迎えようとしています。この6年間の間には講義や実習、研究活動など様々な経験を積むことができました。

講義や実習では専門的な知識を学ぶことができ、自らの興味・関心を追求していくことができました。図書館には数々の専門書が並び、関心のある事は質問すればその道の専門家の先生方に教わることができ、共に勉学に励む学友がいるという最高の環境で学べる事は学生の特権であったと感じています。

研究室に配属してからの研究活動は私にとって「明確な1つのテーマに取り組み、自身で計画を立てて実行し、成果をまとめて人に伝える」事の初めての本格的な経験になりました。そして、その過程で私は自身の

至らなから数多くの失敗をしてきました。計画通りに研究が進まない、実験に失敗した、考察がまとまらない、研究の意義や成果が上手く伝わらない…等、失敗を振り返るときりがありません。更にこの文章を書いている今この瞬間も自身の見通しの甘さ故に修士論文の締切に追い詰められています。失敗続きの研究生生活は楽しくも苦しい物でしたが、これまで重ねてきた失敗こそが私が研究生生活で得た最大の財産であるように思います。修了を機に「失敗」を「教訓」にして一回り成長できたように感じています。

私は卒業後、故郷である徳島県で林業分野、環境分野の職員として働く予定です。これは生物環境科学科・生物圏資源学専攻との出会いがなければまず選ばなかった進路でしょう。専門知識と森林・自然環境への深い関心、そして多くの失敗の経験を与えてくれたこの学生生活はとても有意義な6年間でした。それもひとえに共に学んだ学友や一緒に研究に取り組んだ研究室のメンバー、親切丁寧な御指導をしてくださった先生方を始めとした多くの方々のおかげです。お世話になった方々と大学に御礼を申し上げて文を締めくくりたいと思います。本当にありがとうございました。



平成28年度総会、講演会、懇親会の報告

平成28年6月4日(土)、農学部第3講義室において総会を行いました。平成27年度の事業・決算報告を行った後、平成28年度役員を選出し、平成28年度事業計画・予算を審議しました。総会終了後、井ノ口馨氏〔富山

大学大学院医学薬学研究部(医学)教授、第24回(昭和54年3月)農学部農芸化学科卒業]による講演「記憶をコントロールする」を開催しました。講演終了後、「レストラン花の木」にて懇親会を開催し親睦を深めました。

農学部第12回卒業生および修士第10回修了生の卒業50周年祝賀会の報告

平成28年6月4日(土)名古屋大学農学部大会議室において、農学部談話会との共催により農学部第12回卒業生および修士第10回修了生の卒業50周年祝賀会を開催いたしました。8名の卒業生の皆様をはじめ、談話会会員、現職員、および同窓会役員合計38名の出席で盛大に行われました。祝賀会では、同窓会会長 服部東穂教授、ならびに生命農学研究科長・農学部長 川北一人教授よりご挨拶をいただきました。続いて農学部談話会世話人代表 柳沼利信先生の乾杯のご発声の

後、昼食、歓談となりました。談話会会員 小川良斎様ご提供の、桜に彩られた「名古屋大学農学部創立発展跡地之碑」のスライドをバックに、卒業生の方々から学生時代の思い出や近況についてご報告いただき、会はなごやかな雰囲気の中進行いたしました。昼食後は、生命農学研究科長・農学部長 川北一人教授より、「国立大学法人：荒海の中の航海」と題したご講演をいただきました。

平成28年度農学部学術交流基金助成事業の採択者一覧

(農学部学術交流基金助成は農学部創立50周年記念事業の一環として行われています。)

- ・青木弾 (研究集会参加)
- ・下平美成 (調査研究支援)

人事異動 (平成28年1月～12月まで)

| 日付 | 氏名 | 異動内容 | 職名 | |
|----------------|--------|------|-------|----------------------------|
| 生命農学研究科 | | | | |
| H28.1.1 | 柴田 貴広 | 昇格 | 准教授 | 助教から |
| H28.1.31 | 松田 二子 | 退職 | 准教授 | 東京大学准教授へ |
| H28.3.16 | 山田 早人 | 採用 | 助教 | 沖縄科学技術大学院大学ポストドクトラルスカラーから |
| H28.3.31 | 大場 裕一 | 退職 | 准教授 | 中部大学准教授へ |
| H28.3.31 | 佐藤 豊 | 退職 | 教授 | 国立遺伝学研究所教授へ |
| H28.4.1 | 川北 一人 | 兼務 | 研究科長 | 28.4.1—30.3.31 |
| H28.4.1 | 土川 覚 | 兼務 | 副研究科長 | 28.4.1—30.3.31 |
| H28.4.1 | 原田 一宏 | 兼務 | 専攻長 | 生物圏資源学専攻 28.4.1—29.3.31 |
| H28.4.1 | 浅川 晋 | 兼務 | 専攻長 | 生物機構・機能科学専攻 28.4.1—29.3.31 |
| H28.4.1 | 青井 啓悟 | 兼務 | 専攻長 | 応用分子生命科学専攻 28.4.1—29.3.31 |
| H28.4.1 | 北島 健 | 兼務 | 専攻長 | 生命技術科学専攻 28.4.1—29.3.31 |
| H28.4.1 | 福島 和彦 | 兼務 | 学科長 | 生物環境科学科 28.4.1—29.3.31 |
| H28.4.1 | 池田 素子 | 兼務 | 学科長 | 資源生物科学科 28.4.1—29.3.31 |
| H28.4.1 | 西川 俊夫 | 兼務 | 学科長 | 応用生命科学科 28.4.1—29.3.31 |
| H28.4.1 | 竹下 広宣 | 採用 | 准教授 | 日本大学准教授から |
| H28.4.1 | 三屋 史朗 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.4.1 | 小川 一治 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.4.1 | 金丸 京子 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.4.1 | 水口 智江可 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.4.1 | 渡邊 健史 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.4.1 | 近藤 竜彦 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.4.1 | 新美 友章 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.6.1 | 伊藤 智和 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.7.1 | 一柳 健司 | 採用 | 教授 | 九州大学准教授から |
| H28.7.1 | 小林 美里 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.8.31 | 内田 浩二 | 退職 | 教授 | 東京大学教授へ |
| H28.9.1 | 稲垣 哲也 | 昇格 | 講師 | 助教から |
| H28.10.1 | 藤田 祐一 | 昇格 | 教授 | 准教授から |
| H28.12.1 | 野田口 理孝 | 採用 | 助教 | 理学研究科特任助教から |
| 生物センター | | | | |
| なし | | | | |
| 農国センター | | | | |
| なし | | | | |

農学部同窓会ホームページ案内

農学部同窓会の活動や、農学部研究室の変遷などに関する情報は、農学部同窓会ホームページ (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) に掲載中です。住所変更の案内もございます。ぜひご覧ください。現在ホームページのリニューアルを計画しております。ホームページに対するご意見、ご要望等ございましたらぜひお寄せください。(担当：大川 tohkawa@agr.nagoya-u.ac.jp)

平成27年度 事業報告

- 1) 卒業50周年記念祝賀会の開催
平成27年6月6日、名古屋大学農学部大会議室において第11回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を農学部談話会と共同で開催した。
- 2) 総会、講演会、懇親会の開催
平成27年6月6日、名古屋大学農学部において総会を行った。
総会終了後、粕谷英一氏〔九州大学大学院理学研究院生物科学部門准教授、第25回（昭和54年3月）農学部農学科卒業〕による講演「動物は食べられるのを避ける」を開催した。講演会終了後、名古屋大学「レストラン花の木」にて懇親会を開催した。
- 3) ホームカミングディ事業
平成27年10月15日、農学部大会議室において Dr. Cristino M. Collado 氏（名古屋大学同窓会フィリピン支部長）と Dr. Joseph S. Masangkay 氏（フィリピン大学名誉教授）による講演「フィリピンとの交流を振り返って」を開催した。
- 4) 卒業祝賀会の開催
平成28年3月25日に第7講義室にて卒業・修了祝賀会を開催した。
- 5) 会報「セコイア通信」の発行
平成28年3月に発行した。
- 6) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページの充実をはかった。
- 7) 同窓会名簿の管理
同窓会名簿の更新を行うとともに、要請に基づき名簿情報の提供を行った。
- 8) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力した。
- 9) 名古屋大学農学部創設発展跡地之碑設置許可の更新
平成28年1月に安城市総合運動公園に設置されている石碑の許可期限（平成28年3月31日）の更新手続きを行った。（許可期限は平成28年4月1日～平成38年3月31日）

平成28年度 事業計画案

- 1) 卒業50周年記念祝賀会の開催
平成28年6月4日、第12回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を開催する。
- 2) 総会、講演会、懇親会の開催
平成28年6月4日、名古屋大学農学部において総会を行う。
総会終了後、井ノロ 馨氏による講演『記憶をコントロールする』を開催する。
講演会終了後、名古屋大学「レストラン花の木」にて懇親会を開催する。
- 3) 卒業・修了祝賀会の開催
平成29年3月27日に第7講義室にて卒業・修了祝賀会を開催予定。
- 4) 会報「セコイア通信」の発行
平成29年3月に発行予定。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページを刷新し情報交換の場としての利便性や魅力を向上させるなど、充実をはかる。
- 6) 同窓会名簿の管理
全学同窓会名簿システムと連携し、名簿の充実と管理について改善に努める。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力する。
- 8) 役員会での新規事業の検討
農学部同窓会と母校の一層の発展に向けて、役員会において会員間の交流を深めるための新規事業について検討する。

名古屋大学農学部同窓会 平成27年度決算

平成27年4月1日～平成28年3月31日

【収入の部】

| 費目 | 決算(円) | 細目 | 金額(円) | 備考 |
|------------------|------------|-------|---------|-----|
| 会費等 | 1,900,292 | 永久会費 | 980,000 | 49名 |
| | | 一般会費 | 325,000 | 65名 |
| | | 寄付金 | 550,292 | 91名 |
| | | 広告掲載費 | 45,000 | 3件 |
| 第11回卒業50周年祝賀会費 | 76,000 | | 76,000 | 38名 |
| 平成27年度総会懇親会費 | 48,000 | | 48,000 | 48名 |
| 前年度繰越金 | 22,696,533 | | | |
| 合計 | 24,720,825 | | | |
| (実質収入 2,024,292) | | | | |

【支出の部】

| 費目 | 決算(円) | 細目 | 金額(円) | 備考 |
|------------------|------------|------------|-------------------|---------------------|
| 会報発行費 | 1,356,830 | 会報印刷・発送 | 1,352,646 | 9500部(8300部発送) |
| | | 振込手数料 | 4,184 | 5件 |
| 平成27年度総会 | 244,640 | 講師講演料 | 30,000 | |
| | | 講師交通費 | 35,440 | |
| | | 役員交通費 | 42,600 | 3名 |
| | | 懇親会費 | 136,600 | |
| 第11回卒業50周年祝賀会 | 142,531 | 飲食代 事務費 | 111,060 31,471 | 案内状印刷・発送 |
| ホームカミングデイ事業 | 30,000 | 講師講演料 | 30,000 | マサンカイフィリピン大学名誉教授講演会 |
| 卒業・修了祝賀会 | 323,710 | 飲食代 | 129,342 | |
| | | 記念品代 | 193,720 | |
| | | 振込手数料 | 648 | 1件 |
| 役員報酬 | 132,000 | 役員報酬 | 132,000 | 11名×12,000円 |
| 支部支援金 | 90,864 | 関東支部 | 60,000 | |
| | | 関西支部 | 30,000 | |
| | | 振込手数料 | 864 | 2件 |
| アルバイト代 | 250,000 | | | 事務補助 |
| 郵便振替手数料 | 22,260 | | | |
| その他諸費用 | 55,590 | 交通費 | 17,320 | 学外理事理事会および卒業式出席 |
| | | 課税納付 | 24,501 | 役員報酬・講演料・アルバイト代 |
| | | 談話会出席費 | 12,000 | 3名×2回 |
| | | 事務費 | 1,769 | |
| 次年度繰越金 | 22,072,400 | | | |
| 合計 | 24,720,825 | | | |
| (実質支出 2,648,425) | | | | |

名古屋大学農学部同窓会 平成28年度予算

平成28年4月1日～平成29年3月31日

【収入の部】

| 費 目 | 金 額 (円) | 細 目 | 金 額 (円) | 備 考 |
|-------------------------|------------|-----------|-----------|-----|
| 会 費 等 | 1,870,000 | 永 久 会 費 | 1,000,000 | 50名 |
| | | 一 般 会 費 | 300,000 | 60名 |
| | | 寄 付 金 | 420,000 | 70名 |
| | | 広 告 掲 載 費 | 150,000 | 10件 |
| 第12回卒業50周年 祝賀会・談話会会費 | 70,000 | | | 35名 |
| 平成28年度総会懇親会費 | 35,000 | | | 35名 |
| 前年度繰越金 | 22,072,400 | | | |
| 合 計 | 24,047,400 | | | |

【支出の部】

| 費 目 | 金 額 (円) | 細 目 | 金 額 (円) | 備 考 |
|---------------|------------|-----------|---------|-----------------|
| 会 報 発 行 費 | 1,400,000 | | | 9700部 (8600部発送) |
| 平成28年度総会 | 228,000 | 講 演 料 | 30,000 | |
| | | 講 師 交 通 費 | 22,000 | |
| | | 役 員 交 通 費 | 41,000 | 3名 |
| | | 懇 親 会 費 | 135,000 | |
| 第12回卒業50周年祝賀会 | 140,000 | 飲 食 代 | 100,000 | |
| | | 事 務 費 | 40,000 | 印刷・発送 |
| 卒業・修了祝賀会 | 310,000 | 飲 食 代 | 130,000 | |
| | | 記 念 品 代 | 180,000 | |
| ホームページ管理費 | 200,000 | | | |
| 役 員 報 酬 | 132,000 | | 132,000 | 11名×12,000円 |
| 支 部 支 援 金 | 90,000 | 関 東 支 部 | 60,000 | 平成28年度分 |
| | | 関 西 支 部 | 30,000 | 平成28年度分 |
| アルバイト代 | 250,000 | | | 事務補助 |
| 郵便振替手数料 | 21,000 | | | |
| そ の 他 諸 費 用 | 67,000 | 交 通 費 | 17,000 | 学外理事理事会および卒業式出席 |
| | | 談話会参加費 | 12,000 | 3名年2回 |
| | | 課 税 納 付 | 18,000 | 役員報酬・講演料・アルバイト代 |
| | | 事 務 費 | 20,000 | 発送、コピー |
| 余 剰 金 | 21,209,400 | | | |
| 合 計 | 24,047,400 | | | |



名古屋大学農学部同窓会関西支部だより

関西支部長 加藤 壽郎 (S45農 M)

関西支部は、発足して12年になりました。まだまだ支部活動の規模は小さいのですが、徐々に軌道に乗ってきているように思います。主な活動は、全学同窓会関西支部の総会・講演会・懇親会と農学部同窓会関西支部の総会・講演会・懇親会です。今年度の全学同窓会は、5月14日に開催されましたが、ノーベル賞を受賞された天野教授を迎え、200名程度の同窓生が参加されて、盛会となりました。農学部同窓会関西支部からも20名を超える方が参加され、農学部同窓生の全学同窓会へのご参加としては過去最高となりました。天野先生は、ご自身の受賞研究に関するわかりやすいご説明をされるとともに、今の日本の大学の現状について、特に研究費が国際比較の上においても実に低いレベルになっていることを訴えられました。前年、農学部同窓会関西支部でご講演いただいた川北先生が、毎年削減されていく大学の予算に危機感を抱いておられたことを思い出し、日本の将来にとって由々しき問題と、新ためて痛感いたしました。日本のノーベル賞受賞者、とりわけ名古屋大学関係の受賞者が増えていることは誠に嬉しいのですがそれは過去の成果であって、今後の学術研究の発展を促す大学予算のあり方については政府に再考を願いたいものだと思っております。

また、11月5日には、農学部同窓会の関西支部総会を行いました。16名の会員の方にご参加いただき、本当にアットホームな雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。大阪駅から歩いて15分程度の堂島というところにある中央電気倶楽部で、今年も、朝10時から12時までは、総会と講演会を、また、お昼から午後3時まで懇親会というスタイルで行いました。今回も、30名の同窓生にお集まりいただくという目標を達成はできませんでしたが、初めてのご参加の方も含め、ご参加いただいた方からは、有意義な時間だったとご感

想をいただき、世話役としましては、大変うれしく思いました。

毎年、楽しい講演会ですが、今年は、ホクシン株式会社で社長としてご活躍中の入野様に、ご本人のお仕事で経験されたオーストラリアのタスマニアのお話をいただきました。日本人にはまだまだ馴染みの少ないタスマニアですが、タスマニアデビルという動物の名前はよく知っておられるのではないのでしょうか。北海道と比べてやや小ぶりの面積のタスマニアには、クレイドルマウンテンという美しい山をはじめ、世界遺産となっている森林が広がり、タスマニアデビルだけではなく数々の珍しい動物が住み、自然の宝庫となっているようです。小生も、オーストラリアのメルボルンまでは、学会で行ったことはありますが、タスマニアには行ったことがありません。もし、再びオーストラリアに行く機会があれば、タスマニアまで足を伸ばして訪ねてみたい、という思いを強くしました。

午後は、例年通り、3時間をかけて、懇親会を行いました。参加された全員の方に近況をご報告いただくことが慣習になっておりまして、毎回、ご経験を踏まえた様々なお話は、とても勉強になります。今回は、以前にこの席でご講演いただいた愛媛大学の林先生にもご参加いただきましたが、四国地方にも名古屋大学農学部ご出身の方が大勢おられるので、是非、誘ってやってほしいといったお話があり、大変うれしく思いました。総会のあと、林先生からご紹介いただいた香川大学の早川先生にご講演をお願いいたしましたところ、ご快諾をいただき、次回同窓会でお話いただくこととなりました。早川先生は希少糖のご研究で著名な方で、小生も、先生のご講演を今から、楽しみに致しております。平成29年度の農学部関西支部同窓会は11月11日(土) 10:00～15:00に予定いたしております。会場は前年と同じ、大阪堂島の中央電気倶楽部を予約いたしております。まだご参加経験のない方でも、こんな雰囲気には是非触れていただきたく、ご参加をお待ちいたしております。次回総会の一か月ないし一か月半前には、総会案内をEメールで連絡させていただきますが、当方の不手際などでうまく連絡ができない場合もありますので、その場合には、下記事務局あて、問い合わせやご参加申し込みなど、いただけましたら幸いです。

(事務局連絡先) 寺前朋浩

〒669-1103 西宮市生瀬東町37-23

E-メール: rikamoto@ares.eonet.ne.jp



名大遠州会だより

遠州会農学部幹事 佐々木 健 (平成5年畜産)

名大遠州会は、静岡県西部(大井川以西)に居住または勤務する名古屋大学、大学院もしくはその前身校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、また総会は隔年で開催しています。平成28年は6月18日(土)に、名古屋から松尾総長、伊藤全学同窓会代表幹事の来賓をお迎えし、総会ならびに同窓会を開催しました。まず総会、同窓会に先立ち出席者全員での集合写真を撮影しました。そして総会では、昨年度の物故者への黙祷をささげ、次いで正田会長の挨拶に続き、松尾総長のご挨拶を頂きました。その後、平成26、27年度の事業報告、会計報告の審議、承認、同時に新役員を選出、承認が行なわれました。議事終了後、伊藤代表幹事のからのご挨拶があり総会を終了しました。この総会の様子は静岡新聞と中日新聞の取材があり、翌日の両紙朝刊に名大遠州会第21回同窓会として掲載されました。

総会后、懇親会会場に場所を移し、鈴木鉄郎幹事の司会で南方新会長の挨拶の後、伊藤代表幹事から「全学同窓会の14年のあゆみ」と題して、全学同窓会の創設の経緯、海外支部と国内支部の現状、同窓会の活動と課題などについて、スライドを利用してご講演を頂きました。この後、大久保名誉会長の乾杯の発声で、懇親会を盛大に開催しました。懇親会では、名大オリジナル商品や各代表幹事提供品などを景品とした恒例のビンゴゲームを実施し、老若男女が大いに盛り上がった和やかな会となり、19時30分に終了となりました。

さて、本年は第22回同窓会懇親会をオークラクトシティホテル浜松にて、6月10日(土)18:00に開催予定です。案内状は例年通り4月上旬頃に郵送しますので、奮っての御参加をよろしくお願いいたします。

連絡先：遠州会農学部幹事 佐々木健

〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学 器官組織解剖学講座

Tel : 053-435-2293 Fax : 053-435-2290

Email : tsasaki@hama-med.ac.jp



農学部談話会便り

農学部談話会世話人代表 服部 重昭

農学部談話会は2002(平成14)年に、「農学部B同志の親睦、現役の方々との交流を図るために気軽に歓談する機会を」との趣旨で、当時の名誉教授を中心に設立されました。会員は農学部在籍した教員・職員および現役の農学部長・研究科長、並びに教職員が主ですが、この輪をさらに同窓生にも広げ、「農学部と親しむ会」として発展することを目指しています。この談話会は毎年3月と11月の第2週金曜日の夕刻に農学部隣接するグリーンサロン東山「花の木」において例会を、また6月には農学部同窓会と共催し、農学部・生命農学研究科の現状報告および講演を柱に開催しています。講演は「農学と社会」の視点に立ち、できるだけ適宜を得た話題をと心がけています。本年の企画のうち、3月の第45回農学部談話会、次いで6月の農学部同窓会との共催による第46回農学部談話会については、以下のように計画しています。

同窓会諸氏および現役の皆様のご積極的なご参加を募り、農学部談話会を盛り上げていただくことを期待しています。

記

第45回農学部談話会

日時：平成29年3月10日(金)、午後5時～7時

場所：名古屋大学キャンパス内グリーンサロン東山「花の木」

会費：夕食代を含め2,000円

農学部・生命農学研究科の近況：

川北一人 生命農学研究科長

講演：「蚕糸科学・技術の現状」

名古屋大学名誉教授 柳沼利信 氏

第46回農学部談話会

(農学部同窓会主催による第13回農学部卒業・修了50周年記念祝賀会と共催)

日 時：平成29年6月10日(土)、
午前11時30分～午後2時

場 所：名古屋大学農学部大会議室

会 費：昼食代を含め2,000円

記念講演：「都市の木質化－森林と都市の持続的

調和をめざして－」

名古屋大学大学院生命農学研究科教授

佐々木康寿 氏

農学部談話会についてのお問い合わせ等は世話人代表の服部重昭 (E-mail : s-hattori@ouj.ac.jp) までお寄せください。

農学部の話題 —2016.01.01-2016.12.31—

(「名大トピックス」より許可を得て農学部関係の一部を記載)

- ・ 内田浩二生命農学研究科教授は東北大学などの騒音性難聴の予防につながる遺伝子の発見について「騒音性難聴に NRF2が関わることを示した意義は大きい。予防医学への道を開く研究だ」と語る 2016.1.19 (読売)
- ・ 本学ゆかりの研究者が中心となって活動する「昆虫 DNA 研究会」(代表幹事大場裕一生命農学研究科助教)が「遺伝子から解き明かす昆虫の不思議な世界」を出版 2016.2.5中日 (朝刊)
- ・ 叙位叙勲：正四位 穂積和夫本学名誉教授 2016.2.10
読売 中日 (朝刊)
- ・ 第53回読売農学賞：松岡 信生物機能開発利用研究センター教授 2016.3.22
2016.4.6 (読売)
- ・ 第75回中日農業賞：審査委員長生源寺眞一生命農学研究科教授が「多彩な取り組みがあったが、日本農業を支える本気度ときまじめさは共通。それぞれ家族や職員と力を合わせ、味わい深い成果を生み出した」と講評 2016.3.27中日 (朝刊)
- ・ 経済サブリ：マイナス金利政策は経済学で説明に苦慮 生源寺眞一生命農学研究科教授 2016.4.14中部経済新聞
- ・ 伊勢志摩サミット開催記念《中部の輝く女性》サミット開催：23日 束村副理事・生命農学研究科教授が基調講演 2016.4.24中日 (朝刊)
- ・ 小田裕昭生命農学研究科准教授らの研究グループがインターネットで身長や体重、健康診断結果を打ち込むと一日の食事を取るべき栄養素の基準量が自動表示されるシステムを開発し公開した 2016.5.13中日 (朝刊)
- ・ 束村副理事・生命農学研究科教授は女性の活躍について「女性だけではなく性別に関わりがなく活躍できることが重要。多様性がある社会になれば、個人個人の幸せも高まる」と語る 2016.7.1中日 (朝刊)
- ・ 福島和彦生命農学研究科教授と日本メナード化粧品株式会社は人間の皮膚に塗った化粧品成分が、表面からどう浸透するか、拡大画像で見える形で分析できる手法を開発 2016.7.9中日 (朝刊)
- ・ 中日新聞 地球未来こども塾：田中隆文生命農学研究科准教授は「大自然に接し地元の方々と触れ合ったこの経験を大切にしてくださいね」と語る 2016.8.25中日 (朝刊)
- ・ 経済サブリ：上昇する食の外部化率 栄養不足や過剰懸念も 生源寺眞一生命農学研究科教授 2016.9.10中部経済新聞
- ・ 遺伝子実験施設公開セミナー「身近な小動物から見えてくる私たちの遺伝子とその進化」開催：12月6日 松田洋一 生命農学研究科教授が「染色体から読み解く脊椎動物の進化」をテーマに講演 2016.11.25毎日 (朝刊)

同総会寄付者一覧

(2016.2.1 ~ 2017.1.31)

本年度、農学部同総会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

| | | | | |
|-------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 青木 瑞希 | 青木 睦夫 | 青山 幸弘 | 天野 一廣 | 荒谷 松彦 |
| 一柳 直希 | 伊藤 節嗣 | 犬飼 武 | 井上 忠彦 | 井上 貢 |
| 今井 哲弥 | 上地 里佳 | 宇坪(黒川) 江美 | 梅村(永津) 武夫 | 浦部 督亘 |
| 大澤 俊彦 | 大島 健司 | 岡田 鉦彦 | 岡田 昌和 | 奥村 純市 |
| 小澤 美沙 | 尾関 重邦 | 加治佐実希 | 加村 崇雄 | 川村 征夫 |
| 岸 雅泰 | 木村(丹羽) 邦彦 | 熊谷(伊藤) 達昭 | 小島 正吾 | 小林 一清 |
| 才貴 孝 | 笹尾 幸夫 | 澤木 良次 | 柴田 和憲 | 新海 義秋 |
| 菅沼あずみ | 杉浦(磯村) 克己 | 杉本 賢吾 | 鈴木 隆司 | 鈴木 善彦 |
| 田岡 伸菜 | 滝本 正美 | 館林 亮輝 | 田中 静幸 | 寺島 典二 |
| 友松 篤信 | 中園(須田) 江 | 中園 竜一 | 中坪 稔 | 中野 元 |
| 中野 正則 | 中野 道孝 | 中村 礼博 | 中村 研三 | 並木 満夫 |
| 成瀬 和也 | 西村 弘行 | 西山 尚来 | 長谷川靖彦 | 林 健太 |
| 林 隆治 | 馬場 伸之 | 平井 篤志 | 平井 隆平 | 平野 孝次 |
| 尾頭 誠 | 福井 敏夫 | 福田 忠徳 | 藤森 悦朗 | 古田 隆則 |
| 堀川 祥生 | 堀川 知廣 | 前薦 浩香 | 水野 昭博 | 水野 修一 |
| 村越有里子 | 森 博徳 | 矢野 二郎 | 山田 壽美 | 横井 智規 |
| 横地 修 | 横山 昭 | 吉田 昭 | 吉田(松本) 康 | 渡辺 広次 |

JOHN ROSS GATHRIGHT

事務局だより

事務局では農学部同窓会会員録データの改訂を行っています。転居および転勤の際は、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) までご連絡ください。今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお応えしてまいりたいと考えております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

全学同窓会について

名古屋大学の同窓生等の社会的な活動について広く情報共有し、大学と同窓生等のつながりをより強めるために、また専門分野を超えての情報交流が以前にも増して重要となっているなどの背景から、名古屋大学全学同窓会は設立され、部局同窓会と連携しながら部局横断的な活動を行っています。設立は平成14年で、現在の会長は、豊田章一郎氏（トヨタ自動車株式会社名誉会長）です。大学の社会へ向けての情報発信や、社会からの研究教育活動への参加や支援を受けることができます。強く求められる今日、社会とのパイプを持つ全学同窓会は、大学の発展にとってもその役割が期待されています。農学部同窓会からは、3名が全学同窓会幹事会に参加し、また柴田和憲氏（アサヒビール株式会社専務取締役 生産本部長；S54農芸化学科卒）と生命農学研究科長には評議員を勤めています。

平成28年度は以下のような活動を行いました。

1. 社会貢献人材バンクの名簿整備

大学が運営する「卒業生等名簿システム」の整備と運営に対する協力や、住所等移動データの整備とそのデータの部局同窓会への提供などが行われました。

2. 財政基盤整備

支援会員の募集や支援会費自動引落利用者の拡充、同窓会カード（クレジットカード）の普及と優待店舗の開拓、および活動協力金に関する様々な取り組みが行われました。

3. 拠点形成

国内支部（関東支部、遠州会ならびに関西支部）との連携ならびに各支部への支援が行われました。関西支部第11回総会懇親会では天野教授の講演会が開催されました。また、各海外支部（韓国、バングラディッシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ウズベキスタン、台湾、ラオス、ミャンマー、インドネシア、フィリピンおよびマレーシア）との連携強化が進められるとともに財政的支援（支部費）が開始されました。また、スリ

ランカ支部新設の準備が進められてきましたが、諸事情により設立には至りませんでした。ホームカミングデー前日には海外支部歓迎会が開催され、同窓会役員、大学役員との交流を深めました。

4. 運営基盤の整備

10月15日のホームカミングデーにあわせ評議員会が開催されました。その他、部局同窓会やクラブ活動同窓会との連携する活動が行われました。12月9日には、学士会との共催で濱口前総長（科学技術振興機構（JST）理事長）を招き「科学技術の課題と展望」と題した講演会を開催するとともに夕食会が行われました。

5. 学生支援

名大祭への協力、同窓生が講師を務める寄付講義「キャリア形成論」の支援、「名古屋大学人力飛行機制作サークル AirCraft 鳥人間コンテスト出場、優勝へ向けての人力飛行機の作製、運用」、「名古屋大学宇宙開発チーム NAFT 宇宙教育活動の発展」等への支援が行われました。また、豊田会長が入学式・卒業式へ出席し、祝辞を述べました。その他、アカデミックガウンの発注、輸入に関する支援等が行われました。

6. 大学支援

支部総会や入学式での基金パンフレット配布など、名古屋大学基金活動への協力が行われました。また、ホームカミングデーの共催と支援が行われました。例年どおり「大学支援事業」を公募し、学生活動、就職支援事業、本部・部局事業（講演会、寄付講義など）、その他の同窓会理念に沿った事業の支援が行われました。上記、学生支援も一部はその一環です。

7. 広報活動

メールマガジンや Newsletter の発行、ホームページによる部局同窓会行事、OB による行事等の紹介などが行われました。

各種高圧ガス及び設備の設計・施工
高圧ガス関連機器・各種実験機器



有限会社
アルファシステム

〒465-0005 名古屋市名東区香流1-415
TEL. 052-776-4567 FAX. 052-776-4568
<http://www.alphasystem.biz>

コミュニケーションの進化に対応する



URL <http://www.kwix.co.jp/>

印刷を核に情報産業を担う企業として、
新時代のコミュニケーションの輪を
拡げています。

■本 社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2
TEL (0566) 24-5511 / FAX (0566) 26-0200
■名古屋本部 〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町19-20
TEL (052) 871-9190 / FAX (052) 889-1410

全国同窓会名簿作製・同窓会アドバイザー

SALAT
Salat Corporation

株式会社 サラト <http://www.salat.co.jp/>

本 社 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel.079-284-1380 Fax.079-224-7746

竹本油脂の挑戦は
ごま油、そしてスペシャリティケミカルへ
食卓から宇宙までひろがっています



【本社・研究所】 愛知県蒲郡市
【事業内容】 特殊精密化学品(界面活性剤等)
ごま油の製造販売
【資本金/売上】 1億円/666億円(2016年)
【社員数】 584名(うち名大 生命農学出身者 35名)
【国内事業所】 東京 大阪 福岡
【海外拠点】 アメリカ 中国 台湾 韓国 インド



酒類、醤油、調味料、味噌、漬物、清涼飲料水の製造及び販売



盛田株式会社



【本社】〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄一丁目7番34号 電話番号 052-229-1600
<http://moritakk.com/>

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具

主要取扱メーカー

| | |
|----------|-----------|
| アズワン | 三洋電機 |
| 東京理化 | タイテック |
| 旭硝子 | 日本エイドー |
| 久保田商事 | アト |
| 名古屋三立製作所 | アドバンテック東洋 |

MZH

株式会社みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事一丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117
E-mail: mizuhorika@k2.dion.ne.jp



農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約9,500部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同窓会の通知などにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。

個人情報の取り扱いについて

名古屋大学農学部同窓会では個人情報の正確で適切な管理に万全を期するため、会員データの管理を株式会社サラトへ委託しております。株式会社サラトは愛知県内約80校全国約1,500校の同窓会で会員データ管理を手がけ個人情報保護法に最も精通したプライバシーマーク取得企業です。なお、サラトは得られた個人情報を責任を持って厳重に管理し、個人情報を第三者に開示または提供しないことについて、名古屋大学農学部同窓会とサラトとの間で契約を取り交わしております。